

「わかった！」という時 ～探究により獲得した知識～

足柄高校の校長の時から発行してきた「校長室より」ですが、平塚江南高校に異動してきて、再び発行することにしました。バックナンバーが足柄高校のホームページにまだ掲載してありますが、その最後の号（NO. 32）に書いたように、だんだん忙しくなってネタが尽きてしまい、休刊にしてしまったのです。しかし、転勤を機に心を入れかえて、復刊することにしました。

とはいうものの、平塚江南高校の皆さんに向けて、どんな話から始めたらいいのか悩みました。そんな時に、SSHである本校の特色の一つである「共創探究」の授業にヒントをもらって、あえて大昔のギリシア時代の哲学者の話から始めてはどうかと考えました。

ソクラテスとかプラトンとか、名前くらいは聞いたことがありますよね。そのプラトンという人の書いた「メノン」という本があります（藤沢令夫訳、岩波文庫）。この本は、プラトンの先生であるソクラテスとメノンという若者が対話する形式を使いながら、プラトン自身の考えを述べた本です。この本の中に、ソクラテスがこんなことを語るくだりがあります。

ある一つのことを思い起こしたこと、その思い起こしたことがきっかけとなって、おのずから他のすべてのものを発見するということが十分にありうるのだ。それはつまり、探究するとか学ぶということは、実は全体として、思い起こすことに他ならないからだ。

プラトンの想起説と言われているもので、すべての知識はすでに自分の中にあって、わかるというのはそれを思い起こしているにすぎないのだという考え方です。ちょっと極端な感じもしますね。他人から知識を教わって学ぶことを、人間はあたりまえのようにしています。しかし、プラトンがソクラテスに語らせているのは、もう少し深いレベルでの「わかる」についての話です。何かをずっと考え続けていて、「わかった」というのは、もやもやしていたものが自分の頭の中ではっきりすることであり、（ここからがポイントです）そのためには自分の頭で徹底的に考え抜いて自らわかることが大切であるということを強調しているのです。

学力向上進学重点校をめざし、SSHの本校に、「共創探究」の授業や「総合的な探究の時間」があるのは、Society5.0の時代をにらみながら、教科学習だけでなく、教科横断な内容を主体的・協働的に学ぶことが大切だと考えるからです。すぐ答えの出ない学習の時間ですし、どんな力が自分についているのか、はっきりとわかりにくいので心配になるかもしれませんが、「メノン」に書かれているように、自分の中に蓄積された経験が、何かの機会に一気に開花することがあると期待して取り組んでください。

最後に付け足しになりますが、以前、不登校などの保護者の相談に対応する仕事をしていたときに気がついたことがあります。保護者の方などからじっくり話を聞いていると、実は多くの場合すでに心の中には自分なりのお答えをお持ちで、私はその答えに保護者が心を決められるように、そっと背中を押すのがよいということです。

プラトンの想起説に何となく似た話でしょう。